

<回答者>

代表取締役社長	大宮 久	代表取締役副社長	大宮 正
代表取締役副社長	柿本 敏男	取締役	松崎 修一郎

【質問1】 社長交代について

Q 社長交代の理由、このタイミングで決意した理由は。

A 現在進行中の中期経営計画は2014年3月期までであり、2年を残すタイミングではあるが、今後の後継者育成などを考えると、このタイミングが最適であると判断しました。

宝酒造では差別化された品質を持つ商品を開発し、育成する方針を掲げており、実際に、全量芋焼酎「一刻者」(2001年発売)以来、良い商品を開発できていると感じています。これは、技術陣の成果であり、こういった商品群を育成するのが営業活動であると考えています。

新社長の柿本は技術畑の出身であり、商品開発に長年携わってきた。また、2年前から副社長として営業や人事関係にも携わっており、お取引先からの評価も高く、パトタッチできると感じました。また、私(代表取締役社長 大宮 久)(68歳)と柿本(61歳)の年齢、および後継者育成の期間を考えても、このタイミングでの社長交代が最適であると考えました。

私(代表取締役社長 大宮 久)は代表取締役会長に就任予定ですが、現場は社長に任せ、会長として人脈や経験を活かして、2人でスクラムを組んで中期経営計画を達成したいと考えています。

【質問2】 原材料価格の動向について

Q 粗留アルコールを中心に原材料価格の動向をどう見ているのか。

A ブラジルのサトウキビは、昨年、遅霜による不作と、株の植え替え不足によって収穫量が減少し、(ブラジルのサトウキビを原料とする)粗留アルコールの価格が上昇してきました。今年のサトウキビの収穫量は、昨年より少し多いくらいだと認識しています。粗留アルコールのニュークロップは8月中旬頃から入荷される見通しであるが、価格は高止まりすると予測しています。ただし、為替(円-ドル-レアル換算)の影響で、レアル安が続けば想定よりも低い価格で仕入れることができる可能性はあると思います。

その他の原材料につきましては、容器・包装品など、少しずつではあるが上昇基調で推移すると予測しています。

【質問3】 新商品の発売について

Q 1年前に発表した中期経営計画では、(既存商品の育成に加え)新商品の発売によって売上を伸ばす方向に舵を切ったが、今後も新商品が発売されると考えてよいか。

A 市場のニーズは少しずつではあるが絶えず変化しており、昔よく売れていた商品(清酒や本みりんの1.8L壺など)の売上が徐々に減ってきているため、新商品を発売してカバーしていく考えであります。新商品を常に考え、消費者の皆様の嗜好の変化を的確に捉えて行きたいと考えています。例えば2006年に発売した「焼酎ハイボール」は2013年3月期の売上高で100億円以上を目指しますが、これは消費者の皆様の嗜好を捉えた結果、このような規模の商品に育ってきたということだと思います。消費者の皆様のニーズを捉えた商品、そして、時には、消費者自身が気づいていない潜在ニーズを掘り起こすような商品も開発していきたいと考えています。

以上